

30. One Step Sandwich 法による CEA 測定の基礎的および臨床的検討筒井 一哉...158
 31. 子宮頸癌治療前後の血中 FSH, LH の変動.....戸田 宏...159
 32. Compton Radiography (4).....奥山 信一...159
 33. Compton Radiography (5).....世良耕一郎...160
 34. Increased perfusion を示した頭頸部疾患について河田 泰...160
 35. 脳血管障害の RI-angiography と CT石井 清...160
 36. Pyrophosphate (Sn) 前処置による Choroid Plexus の描出.....駒谷 昭夫...161
 37. 脳疾患における RI 異常集積像と手術所見との比較.....福士 盛大...161

一 般 演 題

1. 肝疾患における ^{99m}Tc phytate による hepatolienogram と energy spectrum の変動 (その 2) 疾患別特性について

三品 均

(東北労災・放)

当麻 忠 佐藤 信男

林 仁守 大宮 光昭

深尾 彰

(同・内)

宍戸 文男 福田 寛

奥山 信一 松沢 大樹

(東北大抗研・放)

わたしどもは、2年来 肝、脾シンチグラムに、それぞれの波高分析値を加味して、その読みに役立てて来たことは、既報の通りである。1977年5月まで、130余例を重ねるに至ったので、ここにその成績を示すと共に、数例の肝シンチを供覧した。

0.3~3mCi の ^{99m}Tc phytate 静注後12分して、肝脾シンチ施行、ついで腹臥位において、肝脾影の中に同一面積の測定領域を設け、エネルギースペクトラムを計測し、hepatolienogramを作製した。これは、5% ウィンド幅で、50, 60, 80, 100, 120, 140 keV の放射能を XYレコーダーで記録する方法によった。140, 120, 100 keV 等、それぞれのエネルギーについて、肝脾放射能 (S/L) 比を算した。

S/L 比は、正常値、慢性肝炎、肝硬変の間には、有意差がみられた。Roter 症候群、前立腺癌の肝転移、肝嚢腫内への子宮癌 (扁平上皮癌) の転移、

肝粟粒結核症、Wilson 病では、在来の肝シンチでは見当がつかないが、スペクトラムは、正常あるいは肝硬変と異なり、それぞれ S/L 比が上昇し、鑑別に役立つことが知られた。

本法では、腹臥位で計測するので、十分な脾カウントを得ることができ、S/L 比算出の再現性が向上したと考えられる。

hepatolienogram と S/L 比算出とは、慢性範発性肝疾患で、肝組織置換の著しいものあるいは高度の重金属沈着するものの診断に有用であることが知られた。

2. 上部消化管の核医学的診断

宍戸 文男 奥山 信一

佐藤多智雄 松沢 大樹

(東北大抗研・放)

三品 均

(東北労災病院・放)

当麻 忠

(同・内)

上部消化管の閉塞性病変の診断を目的として、 ^{99m}Tc O_4^- を経口投与あるいは経静脈投与を行い、種々検討した。さらに、静注後胃粘膜領域を経時的に放射能計測を行なうことにより、胃粘膜機能検査が可能であることを認めたので、合わせて報告する。

1. 経口投与による消化管内腔の充満像を描出する方法：バリウムによるX線透視の困難な症例